



映画「音の城♪音の海 -SOUND to MUSIC-」より

# 音遊びの会

沼田里衣 | ぬまた りい

兵庫県神戸市



## ー即興音楽との出会いー

沼田・音楽のコミュニケーションの側面に興味を持ち、その場で立ち上がっていくような音楽を実現したいと思っていました。そんなときに出会ったのが創造的音楽療法でした。2005年、神戸大学の院生達と音楽のいろんな実験をして遊んでいたのが音遊びの会の始まりです。その頃「エイブル・アート・ジャパン」のプロジェクトの実行委員をしていた野村誠さんに応募を勧められて。そうやって、みんなと一緒にスタートさせました。

音遊びの会では、即興やクリエイティブなことにこだわっています。音楽の形式にとらわれ過ぎてしまうと、自分の中から湧き出るような感覚はなくなってしまう。出発点は音能性に気がついて、価値観が広がることがいいな、と思います。

## ー多方面の人々が関わるー

山出・「音の城♪音の海」に多数のミュージシャンに関わってもらったのはなぜですか？一方、形骸化しているところもあって、障がい者のほうが生き生きと音楽をやっていると思うこともあります。そこで両者が出会うことによって、お互いにとって刺激になれば、と思ったのです。障がいを持つた人達は、パフォーマンスが上手になりましたし、アーティストも変わりました。障がいのある人に対する目線が変わったという方もいます。一緒に音作りをしていくことで、今までにない繋がりも生まれました。即興音楽について保護者の理解を得るのは大変でしたが、ミュージシャンが新たな視点から障がいのある人の音楽的価値を見出して、それを保護者に伝えていたのが自信になっていったと思います。保

護者は最初は見学していましたが、音楽家の大友良英さんが「一緒にやろうよ」と言つてから一緒に音楽を作ることになりました。子ども達だけでなく、保護者が新しいパートナーとして参加する一つの要因になりました。山出・お互いにブレイクスルーになることはありましたか？

沼田・推測ですが、大友さんは障がい児教育の現場に実際に行つてみることなどを通じて、プロの勘で「いける」と思ったようです。「大友の部屋」っていうのを提案されたときは、すごいと思いました。ブレイクスルーといふよりは、いろんな人達が複層的に関わつていて、じわじわ音楽や関係性が熟成されている感じです。音楽家の林加奈さんは、保護者やミュージシャンの家に泊まり込んで共同作曲をしながら、関係性をクリエイティブに紡いでくれた。大友さんの提案で、保護者の持ち寄りで飲食をともにする会やおやつ会も開いたりしながら、交流しやすい環境を作っていました。仲良くなるという意味では、ツアーも大きいですね。ツアード保護者とアーティストが夜遅くまで話し合ったり、移動中もわいわいやっています。

山出・みんなが参加できるように進めていく

## ための工夫や苦労は？

沼田・障がい者にもミュージシャンにも本気になつてもらわないといけない。ミュージシャンも福祉の場とライブハウスでは音の出し方が違うし、障がいのある子にも、てらいがある場合もあります。いろんなことを試しながらやっているので、関わったミュージシャンは許容度が幅広くならざるを得ない。新しい可能性に気がついて、価値観が広がることがいいな、と思います。

## ー音遊びの会の定義とはー

山出・公演にいらしたお客様の反応はどんな感じですか。

沼田・観客のアンケートを見ると、いろんな見方がある。即興演奏の面白さを再確認してくれたり、障がい者の関係性のあり方を評価してくれたり。印象深かったのは「目に見えないものが音に現れている」っていう感想ですね。いろんな事情や背景が音に含まれていることを感じてくれたりとか。

指示行動の練習を自閉症療育として実施する保護者は、子どもが生き生きとして本当に楽しんでいるのが感じられるから参加している。自閉症の人は決められたことがないと不

安がると言われているけど、実際そうでもないなっていう感触はあります。

山出・音遊びの会をどう説明していますか？沼田・障がい者中心だって言つてしまつたら

## 障がい者アートになつてしまふし、音楽中心になつてしまふとやらせになつてしまふ。

公演の取材を受けるときには「音楽バンド」、学会で発表するときは「コミュニケーション音楽療法」というように、説明の仕方はその都度違う。今、音遊びの会を説明するのだったら「障がいのある人を含むアーティスト大集団」かな。

## ー大切にしていることー

山出・これから音遊びの会というのは、何を目指していかれますか？

沼田・こういう音楽のあり方を社会と共有できたらないなと思います。最近は教育関係者からの関心も高まっています。そういう方面からも新しいものに繋がっていくといなっています。去年、規約を作りましたが、音遊びの会とは何なのかという議論はしていない。説明づらい、そういう得体の知れないものが音遊びの会なのかも、とも思っています。

山出・公演にいらしたお客様の反応はどんな感じですか。

沼田・みんなにコンセプトをある程度わかつてもらいたい。障がい者のためなんだけど障がい者中心の会ではない、ということを理解してもららうのはなかなか難しい。保護者のなかには居場所や教育の場として参加している人も多いので、音楽の価値観をわかち合えているかというと、なかなか難しいですね。価値観はバラバラなまま、それぞれがメリットを感じられるよう共存する方法を保つています。

山出・音遊びの会をどう説明していますか？沼田・障がい者中心だって言つてしまつたら